# First Step Program

**工学部応用理工学科２年　原田　要一**

**行き先**　シンガポール
タイ（バンコク）

**期間**　2012 年 2 月 16 日～
3 月 2 日(2 週間)

**動機**　一歩踏み出すきっかけにしたかった、海外に対する漠然とした興味

**お金**
・費用≫　プログラム費：約15万円（22万円程度ですが、7万円は奨学金）、食費：約1万円、海外保険：1万円
・レート≫1シンガポールドル=76円、1タイバーツ=2.8円

≪スケジュール≫

| 日付 | 内容 | 日付 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 2/16 | 新千歳空港→シンガポール(成田経由)<br>日本航空(JAL)成田オペレーションセンター見学 | 2/24 | 天然資源環境省王室林野局苗旗センター<br>タイ・ラオス国境到着<br>(第一友好橋) |
| 2/17 | 市内視察(JTB)、自由課題活動 | 2/25 | 天然資源環境省王室林野局苗旗センタ |
| 2/18 | JTB シンガポール、JETRO シンガポール | 2/26 | カセサート大学<br>(学生間交流・講義・プレゼンテーション) |
| 2/19 | 佐藤工業シンガポール<br>シンガポール国立大学(NUS)見学<br>北大 OB の方々との懇親会 | 2/27 | Cosmos Brewery Factory<br>タイ味の素見学<br>北大 OB の方々との懇親会 |
| 2/20 | Yale-NUS college、<br>NUS にてプレゼンテーション | 2/28 | カセサート大学 講義体験<br>日本航空(JAL)客室訓練センター |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2/21 | 早稲田大学バイオサイエンス研究所<br>Prime Business Consultancy | 3/1 | 国連食糧農業機関アジア太平洋地域事務所(FAO)、国連アジア太平洋経済社会員会(UN-ESCAP) |
| 2/22 | キッコーマン見学、自由課題活動 | 3/2 | バンコク発 - 新千歳空港着（成田経由） |
| 2/23 | シンガポール発 コンケーン(バンコク乗継) | | |

≪プログラム前後のスケジュール≫

| | プログラム前 | FSP | プログラム後 |
|---|---|---|---|
| スケジュール | 2012 年 11 月　FSP 申請<br>12 月　FSP 面接<br>2012 年 12 月 ~ 2013 年 2 月<br>ミーティング・プレゼン準備・資料作成<br>2 月　出発 | | 2013 年 3 月　帰国<br>4 月　帰国報告会<br>8 月-9 月　国際ボランティア参加<br>(Cairns, Australia)<br>2014 年 2 月-3 月<br>東南アジア 3 か国一人旅<br>8 月　北大工学院入試<br>8 月-10 月<br>世界 13 か国、一人旅<br>10 月 TOEFL iBT 受験<br>11 月 留学奨学金選考(東京) + 準備<br>12 月 TOEFL iBT 受験<br>2015 年 1 月 交換留学申請（大学院）<br>2 月 卒論提出 |

## 1. きっかけ

僕は、First Step Program (以下 FSP とします) について、大学 2 年のある日、国際本部の掲示板にあったビラを見て知りました。サークル活動・大学生活・講義は楽しい。でも、繰り返される平凡な日常に、何か物足りなさを感じていました。そんな自分はビラを見た瞬間、「参加するしかない！」と思い、応募を決意しました。

FSP 自体の目標としては、「学生の目を海外に向けさせて、在学中に交換留学に行

く学生を増やすこと」とのことですが、正直、当時海外は単なる憧れで、”交換留学”なんて夢のまた夢だと思っていました。

そんな自分が参加するに至った動機としては、「一歩踏み出す勇気を身に付けたい」「自分を変えてみたい」と思ったことでした。海外に行ったことなく、パスポートの存在すら知らなかった自分にとって、一生懸命考えても何もイメージできません。そのくらいの動機しか思いつきませんでした。

ただ、帰国して２年が経ち今になって言えることは、あのときの FSP 参加は大学生活、いや、人生を大きく変えたと自信を持って言えます。

## ２. 準備段階

プログラムに参加するにあたり、必要になってくる準備は大きく分けて２つあります。

### 1. 北大の魅力を発信するプレゼンテーション作成

First Step Program は第 4 回以降、フレッシュマンセミナーの一環として、単位認定されるようになりました。そのため、ある程度の必須課題があります。そのうちの一つがプレゼンテーションの作成です。テーマは、"北大の魅力を伝え、北大に留学したくなるようなプレゼン" です。現地で行うので、英語でのプレゼンです。与えられた時間内で、北大の魅力や、北大に留学するメリットを思う存分話します。

そのために、メンバーで集まって打ち合わせや練習などをします。チームで作業していくので、例えば意見が割れたり、あまり協力しない人がいたりと、チームだからこその大変さもありますが、それはそれでいい経験だったと思います。

### 2. 企業情報の収集

FSP では、現地で企業訪問をします。企業を訪問するにあたり、何も調べずに行くことは失礼ですし、ある程度基本的なことを知っていたほうが得られるものは多いはずです。そのため、みんなで分担して、訪問企業の情報を集めます。実際に企業訪問してみて、この下調べは本当に役に立ったと感じました。

"えっ？めっちゃ大変じゃん？" って思う方もいるかもしれません。確かに大変ですが、みんなで協力して作業を進めていくので、楽しいことも多いです。それに今になって言えるのですが、これらの作業や FSP 全体を通じて得たものは本当に多かったので、尻込みせず挑戦してみるのがいいと思います！

## 3. プログラム期間中

★企業への訪問★

FSP での主な活動は、企業への訪問です。企業についてのお話しを聞ける機会はそうそうないので、とても貴重な体験だったと感じています。実際に企業を訪問したら、社長の方・支店長の方・責任者の方などのお話を聞きます。企業訪問の最後には必ず質問タイムがあって、各自気になったこと、聞きたいことなどの質問をします。事前準備の下調べはこの質問のときに役に立ちます。企業について何も知らずに話を聞くのと、少しでも知識があった状態で話を聞くのでは、得られることに雲泥の差があると思います。

質問タイムには、「海外で勤務するきっかけ」などについての質問が必ず出ました。皆が興味を持っている内容だからです。その答えとして、「気が付いたら海外で勤務していた」や「海外勤務なんて想像したことなかった」とおっしゃる方が多かったのが驚きでした。ただ、みなさん「英語の勉強はしておいたほうがいい」ということは口をそろえておっしゃっていました。

個人的に、印象に残っている企業訪問は “Prime Business Consultancy” です。この会社はシンガポールに進出する日本企業をサポートするコンサルティング会社です。日本人女性の川村さんという方が、代表をされていて、お話を伺いました。

川村さんのお話はどれも心に残るものばかりでした。その中で最も印象的だったのが、「日本人に足りないものは『打たれ強さ』『自立心』『守らなければならない信念』」とおっしゃっていたことでした。海外に身を置き、外から日本人を見ておっしゃるのだから、とても説得力があると感じました。海外で起業、ましてや経済的変化の激しいシンガポールで起業された川村さんには、日本人に足りないとされたこの 3 つが揃っていたから成功されたのだと思います。自分にも欠けていると思ったので、日々の生活で意識していきたいなと思いました。

★現地学生との交流★

タイのカセサート大学・チュラロンコン大学、シンガポールのシンガポール国立大学、Yale-NUS college など、様々な大学を訪れ、交流する機会が多くありました。FSP に行くまで、海外の友達どころか、北大の留学生の友達すら 1 人もいなかった自分にとってはとてもいい経験でした。

FSP は大体 16 時くらいに企業訪問などが終わるので、そのあとは大体自由時間です。そのときに、交流活動などで友達になった現地学生に案内してもらったり、遊んだりしました。

彼ら彼女らとの交流は、楽しいと同時に刺激的なものでした。タイの学生は、流暢な英語を話し、シンガポールの学生は、公用語である英語はもちろんのこと、日本語・中国語など様々な言語を流暢に話していました。日本文学専攻の学生の日本語は、日本人と間違えるほどでした。対して自分は…？7,8 年間勉強してきたのに英語が話せない…。差を見せつけられた感じがしました。帰国後、ちゃんと勉強しようと決意しました。

現地で知り合った学生の多くは、Facebook や Skype などで今でも繋がり、ときには Language Exchange をしたりしています。また、札幌に来てくれた時には案内したり、逆に現地に行ったときは案内してもらったりと、とてもいい関係を築いています。

## 4. 帰国後の心境の変化

帰国後の心境の変化として、大きく分けて 3 つあります。

### 1. 海外に対する壁がなくなった

参加を決意し、初めてパスポートを発行。もちろん、初海外…!! そんな自分にとって“ガイコク”はもはや未知の世界でした。護身術とか取得して行ったほうがいいんじゃないか？って考えたくらいです。

そんな自分が、初めて海外に行って感じたのは、”意外と何とかなるじゃん！”ということです。道が分からなければ聞けばいいし、言語が通じなければジェス

チャーを使えばいい。そう考えるようになりました。海外がより身近なものに感じられ、積極的に海外に行ってみたいと思うようになりました。これは自分にとって非常に大きな変化だと思いますし、この感覚が、自分の 2nd Step、3rd Step に繋がったと考えています。

2. 海外のことについて興味を持つようになった

出発前までは、海外に関するニュースを聞いても、どこか ”遠い場所での出来事だから…” と考える自分がいました。しかし、帰国後は海外情勢などのニュースに敏感になった気がしました。

3. 外国の友達をたくさん作りたいと思うようになった

FSP 参加するまで、留学生の友達や外国の友達はいませんでした。しかし、帰国後にはいろいろな国籍の人と友達になりたいと思い、行動するようになりました。

FSP に関する体験記は以上になります。しかし、First Step Program は参加者にとって、あくまで "きっかけ" にすぎません。終わった後に FSP を **“起爆剤”** にしてどれだけ行動できるか、が最も重要になります。パスポートの存在すら知らなかった 19 歳の僕は、初海外で FSP に参加し、大きな心境の変化を感じました。そして FSP 参加後には、僕なりに考えて、いろんなことに積極的に挑戦しました。FSP に興味ある方も、ない方も、参加者である僕が帰国後にどのような経験を積んでいるか、簡単に書いたので読んでいただけると幸いです。

## 5. My 2nd Step　~オーストラリアでの国際ボランティア~

“FSP に行っても、そのあとに行動しなくては意味がない！鉄は熱いうちに打とう！” そう考え、帰国後、すぐに夏休みの国際ボランティアの申し込みと飛行機の手配をしました。行先はオーストラリアの自然豊かな観光地、Cairns です。

FSP では集団で行動し、行先までは案内されることがほとんどだったのですが、このときは生まれて初めて単独海外でした。そして現地での 1 か月の生活は、世界各国から集まってきた人たちとの共同作業…！ワクワクと不安の両方の気持ちがありま

した。

いざ一緒に生活してみると、自分の英語の話せなさに絶望しました。オーストラリア訛りのテリー(Volunteer リーダー)の英語は 1%くらいしか聞き取れませんでした。FSP で感じた、語学力の低さ。悔しくも“再び”味わいました。積極性、語学力、異文化理解…自分の努力不足に関することで何度も何度もショックを受けました。

ただ、そんな中でも、ルームメイトと一緒に Bar やシュノーケリングに行ったのはいい経験です。過酷だった常夏(常時 40℃以上…!) の森林保全活動は大変でしたが、世界から集まった仲間たちがいたからこそ乗り切れたのだと思います。

この海外ボランティアの経験で、「英語でもっとコミュニケーション取れるようになったら楽しいだろうな…」と感じました。"英語が聞き取れなさすぎて笑顔で誤魔化す生活は嫌だ！" この苦く悔しい経験もまた、英語を勉強する **“起爆剤”** になりました。帰国後、心を入れ替え、英語の猛勉強を始めるきっかけになりました。自分にとっての Second Step です。

## 6. My 3rd Step　~東南アジア一人旅~

僕は、3 年次の春休みと 4 年次の夏休みを目いっぱいに使って、コンビニのアルバイトでこつこつ貯めたお金を目いっぱいに使って、東南アジアへ一人旅に出ました。持ち物はバックパック 1 つです。「何が正しい、何が正しくない」そういった価値観は自分の生きてきた中の知識や経験の中からしか形成されません。社会に出るにあたり、世界基準で物事を考え、外国文化に偏見なく接する必要がある現代において、旅を通じて価値観を広げることは大切な経験になると思い旅立ちました。この経験もやはり、FSP あってこその経験です。海外に飛び出す“きっかけ”となる FSP があったからこそ、海外一人旅を実現できるだけのフットワークの軽さを身に付けられたのだと思います。

東南アジア+南アジア+中国、計 13 か国をゆっくり旅しました。長い旅の中でいろんな地に足を運びました。その中で最も印象に残っているのはマニラのトンド地区です。僕は、フィリピンの首都マニラを訪れた際に、トンド地区という最貧のスラム街に行きました。地元の人はおろかタクシーの運転手ですら行きたがりません。治安があまりに

も悪すぎるのです。そのため、歩いて行きました。僕が想像していたスラム街は、生きていくのがやっとで、人生に絶望した人々でした。しかし、実際に足を運んでみると、確かに衛生状態は良くないけれど、笑顔で生き生きと過ごしているスラム街の人々が目に映りました。この光景が僕にとっては衝撃的でした。なぜなら、「貧困は悲しいこと」だと考えていたからです。そこで僕は考えました。「豊かであることは本当にいいことなのか？」と。

この旅は、一人旅だったのですが、各国(タイ・シンガポール・ブルネイ)では FSP を通じて出来た友達と行動することが多かったです。5 日間のシンガポール滞在では、FSP で知り合った NUS(シンガポール国立大学) の学生に案内してもらったり、その繋がりでさらに NUS の友達が増えたりもしました。一緒に NUS の食堂でご飯食べていたら、「この後に講義に行かないといけないけど、その時間待たせるのは申し訳ないから」と言われて一緒に日本語の授業を受けたこともありました。そしたら、いつの間にか講義の日本語講師役になっていました(笑)。

また、長い旅の中で“日本人であることに対する誇り”を強く持つようになりました。旅の途中、現地で会った人に “I'm from Japan.” というと必ずと言っていいほど、「マナーのいい日本人は大好きだよ」と言われました。どこの国に行っても、日本人のマナーの正しさは認められていました。ブルネイを訪れた際には、日本人ということが分かると、祭りを楽しんでいた人が、”日本人と仲良くなりたい！”と集まってきました。旅に出る前は日本人がここまで世界的に認められているとは知りませんでした。このような経験は日本にいるだけでは、できないことです。一人旅に出て、”日本人を外から見る”という経験をできてよかったと心の底から感じました。

この旅を通じて、”視野が広がった”と言えば大袈裟ですが、少しは広がったのではないかと思っています。この経験を通じて、外から日本を見ることの大切さを知り、漠然と考えていた留学を決意しました。また一歩、踏み出すことができました。そういった意味でも、自分にとっての Third Step になったと考えています。

※一歩踏み出したいけど、勇気が出ない人向けに、海外の魅力を発信するブログをやっています。もしお時間がありましたら、参考までにどうぞ。
http://ameblo.jp/harayou12/

## 7. My 4th Step　~大学院交換留学に向けて~

右も左も分からず海外に飛び出した 1st Step、英語力のなさを痛感した 2nd Step、少しだけ視野を広げることができたかな？3rd Step。いくつもの **“起爆剤”** を経験し

つつ、段階を追ってここまで来ました。今度は 27 年度 9 月からのカナダの大学院への交換留学に向け、準備を進めています。

研究を行うにあたり、英語力は不可欠です。論文はすべて英語、世界に研究成果を発信するときも必ず英語です。大学院で交換留学を通じて、海外の大学院の授業を受け、研究・学会発表をし、英語での読解力・発信力などの運用能力を身に付けたいと考えています。帰国後は、英語の運用能力、特に発信力を活かして研究をより良いものにしたいと考えています。同時に、留学中は、現地学生・留学生と交流することで、”外から見た日本” をより理解し、”日本という国” について勉強しつつ発信していきたいと考えています。

ただ、大学院の交換留学もあくまで 4th Step。Final Step は就職後にあります。まだ先のことは分かりませんが、将来の夢は、""世界に通用する研究者になること""。FSP、2nd, 3rdStep、と経験していくうちに "夢のスケール" が大きくなってきた気がします。成長するきっかけを作ってくれた FSP、そして担当の正木さん、国際本部の方々に心から感謝しています。

※北海道大学 First Step Program の HP:
http://hokudaifsp.web.fc2.com/